



WAT(ワット)

Monthly WAT 第四号
2004年5月1日 発行

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| eWAT 証券は機能しうるか (1) | 森野 栄一 |
| ギーク・クレジット・マニュアル | アレキサンダー・コマロフ
森野 栄一 訳 |
| お金と賃金、そして経済危機—安定通貨の話 | 森野 栄一 |
| 世界の病は複利にある—シルビオ・ゲゼル | ベルント・グラショフ |
| 「ちがりん」における事務局、太っ腹モード | 森野 栄一 |

eWAT 証券は機能しうるか（1）

森野 栄一

設計者本人としては十分機能すると考えていますが、それを説明しなければなりません。eWAT 証券は貨幣のように、保蔵され、貨幣保有の三動機に基づき保有され、場合によればポストケインジアンという金融上の動機からさえ保有され、決済手段として持ち手を変えながら流通もするでしょう。WAT エネルギー証券を活用する地域通貨の輪が成長するにつれて、円貨の自然エネルギー生産への流れを作り出しながら、他方で、一枚 1 WAT（現在 5 kWh くらい。100 円を購入してあまりあります）のエネルギー証券が流通に投ぜられていきます。これは円貨にも 5% 程度の手数料を支払えば変換できますから、実質的に地域通貨の仲間のなかでは 100 円札（or 1 ドル札）と同様に使えます。

これがなにを意味するのかというと、電力ベースで持ち続けるかぎりは、（大方の予測に反して化石エネルギーが激しい下落に見舞われ、電力会社の「好意」に基づく買電価格が現在より下落するような場合を除き）保有し続けても自己率において減価することもなく、場合によっては高騰のプレミアムが発生するケースもあり、ときどきの現在において、決済手段として使用する場合は 100 円札（or 1 ドル札）のごとく、実物決済で使用でき、また、円貨に交換するときは、額面高（kWh ベース）の 5% の手数料が取られることで、円貨保有に負荷をかけるのではなく、円貨を保有しようとする手続き自体に負荷をかけることで、円貨使用の忌避を誘導し、電力ベースでの決済が督励されることを意味します。したがって一度エネルギー証券を入手したひとは持ち続けようとする動機が発生するでしょう。もちろん、これを決済手段として受け入れる多様な財の供給先が限られている段階では、5% の負荷を超えてまでして円貨を入手したい理由も存在し続けるでしょう。しかし、これは額面高 5% の負担を覚悟して円貨に変換しても採算がとれる人がもし存在するならば、エネルギー証券に対する需要先にもなることを意味し、エネルギーの証券買い入れ、融資への需要が発生することにもなり、エネルギー証券の活用が図らずも図られることにもなります。もし円貨入手の手法として、この証券にプレミアムをつけてまで入手したいひとがいれば、エネルギー証券に対する円貨の価値が下がり、この証券利用の魅力が増すことを意味するでしょう。

この証券は 200 円出資すると 1 枚もらえますが、それ以外に、地域通貨 WAT の 1 WAT 券に対する信用保証が得られます。これは WAT 券という地域通貨を活用している人には一つの追加的な魅力となるでしょう。

エネルギー証券でも WAT 信用保証でも十分にカバーできない、残りの 50% 分（100 円）の出資については、一定のスケジュールに応じて、エネルギー証券と WAT 既発券での配当が予定されていますので、円貨を WAT BANK という変換装置に流れこませることは、長期に資金をねかす投資とは違った性格をもつことにもなり、自然エネルギー産業への出資を容易にすると期待されるのではないかと考えています。

もちろん、こうした目論みはすべてWATシステムズの発展に制約されています。WATのよさを知り、活用し始める人が増えるほどに、エネルギー証券の利用は進むでしょう。もちろんその存在を知って、それからWATシステムズの仲間に入ってくるひとがいるでしょうが、基本的にはWATの発展プロセスに依存的です。

これは、エネルギー証券が、資金集めの証券販売とは根本的に異なっていることを示しています。実物量額面の証券を販売するケースでは、じつはそれによって入手しうる円貨が常に基準になっています。つまり、ひとのアタマのなかは円貨ベースでの損得で支配されています。しかしWATエネルギー証券はそうした手法とは無縁だからです。

このeWAT証券がWATコアのネットワーク形成に制約されているという事情を信用の面からみてみましょう。ダグラス少佐は実質信用と金銭信用を弁別しましたが、実はこの両者は現実においては相互に浸透しあっています。ひとが具体的な関係のなかで相識関係に立っていくとき、そこに実質信用があります。それはさまざまな相互秤量の関係のなかで成立しています。そしてこの関係のなかで、相識関係の拘束性から解放され、匿名のうちに自律を求める傾向と実名の覚悟のなか他者との連帯のうちに自己を実現しようとする傾向の二つが相反的に存在し、人の内・外面を特徴づけています。この前者を重んじながら、連帯関係をも結びたいとき、他者を信用する基礎を第三者や物、そして最終的には金銭に求めます。つまり貨幣と同様、物も具体的信用を吸収し、人物情報の重要性をかなりな程度消滅させます。しかしこれは金銭にはかないません。具体的事例として、担保証券を考えましょう。お米券などがあります。なぜ、これは決済手段として活用されないのでしょうか。じつは、この理由は担保証券の仕組みは単独ではネットワーク生成的ではないからです。これは金銭において最高の形であらわれます。店頭で買物にきた青年が代金をちゃんと支払ってくれたからといって、店主はその青年に娘を嫁にだそうなどとは考えないものです。ここで実質信用は100%金銭信用に吸収されており、店主と青年の間に何の人的ネットワークも店頭での売買からは生まれません。

地域通貨で担保証券を活用しようとの動きがあります。実際、効果を上げていると喧伝しているところもあります。しかしたとえうまく機能しているようにみえても、そうさせているのはその担保証券の仕組み自体ではなく、そこにあって、一定の信頼の程度を実現している社会的な人間関係なのです。例えば、それが古い共同体的な助け合いの習俗の残滓であったりします。ところがそういう関係の残存を当然のごとく考えてしまうと、その事情が見えなくなり、あたかも財担保型地域通貨の仕組みがうまく機能するかのごとく錯覚することになります。実質信用の吸収度は、代価としての受領の確実性に依存し、それは担保の状態や中味に依存します。財担保の場合は財そのものに対する人の評価ですし、貨幣の場合は、昔は金銀、それから金銀から解放された紙に乗る法定通貨の法定性です。法定通貨は国家が国法をもって100%の代価としての受領を国民に義務づけます。これが100%受領の可能性が最高度に与えられる根拠です。財の場合は代価としての受領の可能性がただ与えられるだけです。それが決済手段として出回っ

ていくかどうかは人の作る社会関係が決定します。つまりヒト→モノ→カネという方向に信用の程度は実質信用から金銭信用の完成に向かうベクトルとして存在するわけです。

そうすると eWAT 証券は一種の財担保証券でもありますから、なぜ流通するのかとなります。それは WAT システムに依存的で、被拘束的だからです。WAT システムは実質信用を相対的に決定していくネットワーク性にその本質をもっています。そこでつねに、WAT システムズの場合であれば、WATcore の部分をなす p 2 p のネットワーク形成の重要性があるわけです。WAT コアは地域も特定されず、会員も特定されず、中心のない、つかみがない構造をなして、やはりローカライズしたいという欲求が出てきます。しかし一面で、必ずこのコアのネットワーク形成がないと、どのような拡張部設計もその本質を失ってしまいます。まことに、交換は信用の出発点（プルードン）です。この場合、交換は貨幣の介在を前提しません。売買の同時的成立を必須とするバーター交換であってもかまいません。そこから議論が始まります。当事者は何らかのネットワークが成立していく実名のつながりが展開するプロセスのなかにいます。もし実質信用を復活させたいと地域通貨関係者が願うのであれば、この信用の始まる初発に帰って考え始めなければならないでしょう。もし担保証券のような実物を反映するモノへと信用の根拠の移転を成立させるとき、それが金銭信用にまでは至らず、しかし貨幣の機能を代替してしまう可能性はどのように成立していくのか、それが問題になるからです。この問題を考えるにつき好便なのは、清算手段の自己発券性の問題にみえます。ここに F. マゼルの議論の秀逸さが存在します。しかし具体的に、F. マゼルの交換券システムを紹介し、発展させようとした試みを知りません。オーウェンの公正労働交換所はたしか 1932 年に取り組みましたから、それよりもはやいものなのに、この国では意図的に無視されてきたとさえ考えさせられてしまうほどの状況が続いてきたのでした。

ギーク・クレジット・マニュアル

アレキサンダー・コマロフ

森野 栄一 訳

ギーク・クレジットとは。(訳注：ギークとはヘンな、あるいは奇妙な信用の意味と考えられる)

ギーク・クレジットとはインターネット向けにデザインされた補完通貨です。オフラインでは補完通貨は広く使われています。それは通常の貨幣にとって代わろうとするものではありません。むしろ交換の媒介物としての通貨システムの利益と地域コミュニティに利益をもたらす共通の価値を提供するものです。それがこれらの通貨が補完的と呼ばれる所以です。開かれた補完通貨はコミュニティが利用するものなのです。ギーク・クレジット・システムは中心となる権威を必要としません。それで運営にさしたるコストも要らずに機能します。また行政的な圧力によって傷つけられにくいものです。行政当局がコミュニティ通貨を禁止したり、コントロールしようとした場合でも、ギーク・クレジットベースのシステムは生き延びるでしょう。

ギーク・クレジットの使用方法

ギーク・クレジットはさまざまなコミュニティをサポートします。各コミュニティは別々のギーク・クレジット通貨をもち、あるただ一つの数字で受領されます。

* コミュニティ0は私がギーク・クレジット・システムをデバッグするために走らせるテスト・コミュニティです。誰もがギーク・クレジットを発行し、受領し、支払うことが自由にできます。このクレジットはいかなる価値ももってはいません。

* コミュニティ1はギーク・クレジットホームページで記述された仕方でギーク・クレジットを活用するインターネット上のコミュニティです。

* その他のコミュニティは、そのグループのなかで、webサイトやゲームなどでギーク・クレジットを利用する私的なローカルなグループです。

このようなコミュニティを運営しようと計画しているなら、どうかメモを送ってください。コンフリクトを避けるためにその数字を付け加えるでしょう。

ギーク・クレジット・システムを使うためには、G n u P Gをインストールする必要があります。そして公開キーがよく知られたキー・サーバーで公開されていて、他のギーク・クレジットユーザーに利用できる必要があります。またギーク・クレジット・ポケットソフトの使用が推奨されます。その他のソフトを使ったり、ギーク・クレジットを手動で処理するときは、ギーク・クレジットを読み、受け入れるかどうか確認してください。

典型的な取引のシナリオはこうなります。

1 購入者と販売者は支払うべきギーク・クレジットの額で同意します。また販売者が受け入れるクレジットの発行者たちのリストにも同意します。

2 購買者は販売者が受け入れるギーク・クレジットに取引の詳細を追記し、サインします。購買者はこのギーク・クレジットをその「ポケット」から得るか、必要であれば、新規に発行します。

3 購買者は販売者にこのクレジットを、なんらかの回線を使って送ります。この回線には安全ではない（FTPやインスタントメッセージ、emailなど）が含まれます。転送の最中にポケットや送信回線から盗むことは無意味です。ギーク・クレジットを盗む仕方は複製を作るだけのことです。しかしこれは容易に探知されてしまいます。アタッカーが有罪であることはその署名で証明されてしまいます。送られたクレジットは購買者のアーカイブに残っているのです。

4 販売者は受け取ったクレジットの署名と発行者のデータをチェックします。販売者が発行したクレジットは償還されます（破棄されます）。取引情報は販売者のアーカイブに向かいます。

ギーク・クレジット事例

Geek Credit example:

<EXAMPLE START>

Geek Credit 0.3 591847600 1

alice <alice@wonderland.ru>

bobby <bobby@wonderland.ru>

Sat Mar 20 11:31:38 2004

-----BEGIN PGP SIGNATURE-----

Version: GnuPG v1.2.4 (MingW32)

iQCVAwUAQFwBalD6OYn9U7V6AQKF3wP/URRjRN1M5TqeFN7dpZFS7032ie84

LkHDFUYELNkp4P7kemLJeXTu4z7orvbYMu93ARBZQHC3lHPCVqYa8KpyiJiM

BCekGcd2MPEXLWivs94bf39k1vdhZHF+NpQLMsEgaOjOTXfEcc9KYDN2LDR5N

U5mA649RcM5Otk4LZGSKM==iegZ

-----END PGP SIGNATURE-----

bobby <bobby@wonderland.ru>

catty <catty@wonderland.ru>

Sat Mar 20 11:32:47 2004

-----BEGIN PGP SIGNATURE-----

Version: GnuPG v1.2.4 (MingW32)

iQCVAwUAQFwBr4DvBX7v1UrPAQIfDgP9HR8/49u4NjcDR36YdEVP3MMckSAO
MbJdY31vyBNHsmHw9Rh+/Wq3BJt6JJINGW6UQvOpSqqFUeYytIBXFuQyTTsl
O76Z4MHX97Nx784w+jspggQJXYAELHHGsU/bnWUlq6n5qzNfqPx5togstrowzR7/
97gmONaAqyzA9O9BM9M==f5jZ

-----END PGP SIGNATURE-----

</EXAMPLE END>

このギーク・クレジットはこれを含めて数ギーククレジットをボビーに支払ったアリスが生成したものです。その後、ボビーはこのギーク・クレジットをキャティに支払いました。もしキャティがアリスにこれを支払うならば、このクレジットは償還され（破棄され）ます。

Changed at Fri Apr 9 20:58:23 MSD 2004

お金と賃金、そして経済危機—安定通貨の話

森野 栄一

戦前、ゲゼルの仲間であったテオフィール・クリステンという経済学者が、下記のような、経済をみるさいの、概略的な話を提供していました。なにゆえゲゼル支持者たちが安定通貨というものをその旗印にしたのか、その理由がうかがい知れます。

どのような経済生活でもその基礎になっているのは労働です。勤勉な労働が公正な賃金を必要とするのは異論のないところです。しかし、この公正さをどう考えるかは難しい問題です。

現在、賃金は貨幣で支払われていますが、勤労者が受け取る貨幣は、生活を送るために、それ自身は賃金稼得者にとってなんの用途もないものです。まったくお金そのものを食べるわけにはいかないからです。お金の役目は賃金稼得者に生活のために必要な財やサービスを得させることにあります。貨幣でもらう賃金はひとつのつながりのある段階の表現でしかありません。ひとが勤勉に働く目的は財やサービスでみた賃金（実質賃金）なのです。公正さにつき、さまざまな議論があっても、少なくともこの実質でみて満足な生活が送れないようでは公正であるとはとても言えないでしょう。

貨幣を生活に必要なモノやサービスに変えるためには、モノやサービスを商う人々も必要です。いくらお金があっても必要とするモノの社会的な配分機能を果たす人々がいなければ、手に入れることはできないからです。それにくわえて、価格が安定していることが重要です。安価に入手できるのは誰でもが望むところですが、あるときは安いが、別の時は手が出ないほど高騰するというのでは困ります。ですから、勤労者は貨幣の購買力が安定している場合にだけモノやサービスでみた賃金が保証されるということになります。

しかし、インフレやデフレでこの購買力は一定しませんし、そのことは生活に必要なモノやサービスでみた実質賃金が安定しないということをいみしています。もしインフレで日々に貨幣の購買力が低下していくとなれば、その低下した分は誰かの得になっているはずですから、「搾取」されているとっていいのかもしれませんが。逆にデフレで、消費を控えてお金でもっていると、時間がたつほどに、モノやサービスの値打ちが下がるわけですからお金の値打ちが上がることになります。でもそれはお金を持っているひとしか得をしないということでもあります。また、その得は、どこから、誰の負担で発生することになるのでしょうか。それはモノやサービスを作ったり、提供したりしている人々が負担するか、あるいは、その負担分を価格に含めることができる場合は、今日の消費を明日以降に引き延ばせば得をするとわかっていながら、今日の消費にお金を使い切ってしまうざるをえない人々が負担させられることになるでしょう。

生活に苦しんでいるほとんどの人は物価が下がっていくことを望みます。物価の下落

は厳しい経済危機をもたらすことを知ることなしに、それを望むのです。実は、物価の急速な下落は急速な経済危機に至るのです。持続的な下落は数年かけて産業や商業・交易に障害をもたらしていきます。物価というものはバックに入れると壊れる車輪のように一つの方向にのみ動いていくものです。

このことは私たちの関心を通貨の問題へと差し向けます。それは勤労者たちに死活的な重要性をもっています。これを知らないと、エンジンのメカニズムを知らない自動車ドライバーが運転手として働き、災難をもたらすようなことが起こります。このことは、私たちが通貨の問題に関心をもたないと、通貨のことを知らない政治指導者を選んでしまい、そういう場合に起こる災難でもあります。そしてこの通貨の分野では正統的な保守的指導者も社会主義の指導者もともによくご存じないのです。歴史を尋ねれば彼らがともに人々を災難に陥れた事実を知りましょう。勤労者たちが通貨管理の諸原理を把握したときにのみ、ほんとうに効果的な経済改革を実行できるリーダーを選ぶことができるでしょう。

一般物価水準が通貨管理に依存していることは容易に証明できるでしょう。どの国の一般物価水準も紙幣の発行や引き上げによってあがったり下がったりします。統計で発行紙券量と物価水準の関連性をみることができましょう。流通する貨幣量の増加には必ず物価の上昇が続きます。

紙幣の継続的な発行によって貨幣はどのような程度にまでも上昇できますし、逆に規則的な回収は取引が停止するところまで、物価を下落させることでしょう。しかし、紙幣の管理の力が与えられるなら、これらの二つの極端な政策の間で、市場が必要とする安定した条件をもたらす的確な紙券量を発行する手段を見つけることができましょう。市場の安定した条件にあっては、物価は全体として上昇も下落もみないでしょう。

物価が上昇も下落もしない場合、貨幣はつねに同じ購買力をもっています。つまり通貨は安定しているのです。

戦争の時期をみてみれば、どの国の歴史でも、中央銀行は恣意的に紙幣の発行量を増やしていましたが、このことは債権者と債務者、雇用者と賃金稼得者の間の合意に大きな混乱をもたらしたものです。こうした、一般的には不確実性ですが、これは勤勉な産業を抑制し、投機家や高利貸しが跋扈することになったのです。勤労者たちの間にみられる不満の主な原因は、現在の不合理な通貨の管理にあるといえるでしょう。

ほとんどの指導的な金融業者たちは通貨の安定は不可能だと述べます。こう主張することで、彼らは自分たち自身が間違っているか、私たちを迷わせようと望んでいるのか、どちらかなのだということになります。なぜなら私たちが勧めるような健全な通貨システムは、多くの銀行の大立て者やその仲間たちの利益にはならないからです。しかしこのことは勤労者が金融業者の奴隷であり続けなければならない理由ではありません。

経済生活に対する通貨の影響はあまりに強調しすぎることは適当ではないでしょう。しかし、誇張しなくとも、歴史は貨幣が決めてきたといえます。そしてもちろん、通貨の

法則の知識なしに歴史を解釈することは無理でしょう。たとえばローマ帝国の崩壊は一般にはチュートン族の侵入といわれますが、ローマ帝国の衰退はこの侵入より以前からみられ、衰退の真の原因はローマがその通貨のために依存していたスペインの銀鉱山がアウグストゥスの時代に枯渇したというよく知られた事実にあるからです。鉱山が枯渇したことで、物価は次第に下落してゆき、産業や商業は麻痺していったのです。通貨を供給する銀鉱山が別に発見されなかったので、こうした物価の持続的な下落は西欧中世のあいだ続き、数千年の進歩の時計を止めたのです。アメリカ大陸の発見があつてから、金や銀がメキシコから流れ込みはじめ、進歩が再び始まり、紙幣の発明がこれを強化したわけです。

経済危機

経済危機が発生したとき銀行に責めがおわされるべきといわれます。それは彼らが危機を予防するのに失敗したからという理由からばかりではありません。実際には危機の発生を急かせ、被害を受けた勤労者を傷つけるからです。

経済危機のさいに、なにが起こるかみてみましょう。私たちの現在の非合理的な貨幣システムによって、危機への怖れがしばしば危機を勃発させます。例えば、若干の噂にすぎないものが、株式市場でパニックを引き起こします。株式の売り急ぎの結果です。貨幣はほとんど保蔵されてしまい、銀行の金庫室に滞留し、「遊休資金は銀行に蓄積される」という状況になります。こうなると、流通している貨幣量は減少し、その結果物価は下落します。次ぎに警告を発するのは商人です。物価が下落し始めると、以前よりも少なく仕入れ、注文をキャンセルします。消費者は貨幣でもっていることを選択していますからモノが売れなくなるからです。そうなると、人々はさらに物価が下がると予測しますから買い控えも発生します。しかし多くの産業は、すでに終了してしまった以前の好景気の波にまだ乗っていて過大に操業しています。製造業者は生産物を積み上げ、商人は仕入れに気が進みません。この二つの原因が物価をもっと下げるという効果を生むのに強力しあいます。工場は売れない製品でいっぱいになります。それで操業時間を短縮することになります。売れないモノを購入するはずの、また購入すると期待される人間たちの間に失業と貧困が広がります。こちらに製品があり、あちらにそれを必要としている人がいる。でも、いかなる取引も起こらず、経済生活は打撃を受けるわけです。

それで銀行はどうするのでしょうか。とりわけ中央銀行の総裁は貨幣についての知識をもっているでしょうが、彼らは精力的に介入し危機を防ごうとします。危機が脅威であるとき、資本家は債務者から融資を引き上げ始めます。この債務者は雇用主です。この引き上げはちょうど雇用主が使える貨幣をもっていないときに起こります。なぜなら、彼は好景気の波を信じていたわけですし、すべての資金を事業に投じているからです。彼は積み上げた製品を貨幣に変えることができません。なぜならそれは売れないか

らです。価格が下落しはじめている製品を誰も購入しないでしょう。

したがって雇用主は銀行から別の借入れをしようと努めなければなりません。破産から逃れるために、貨幣を手に入れるためには雇用主がどんな犠牲をも払うことを銀行は知っています。銀行は高利（パニック金利）を要求して雇用主の困難につけ込みます。私的な事業に従事していますから、銀行の人間はそうではない博愛的な対応をすることができません。なぜなら銀行の株主に出来る限り高い配当をもたらさなければならないからです。可能なかぎり高い利息で融資をしようとするのは彼らの義務です。銀行はまた危機の時期における貸付の増大するリスクを考慮もしなければなりません。

中央銀行も不幸なことに私企業です。彼らもまた同じ原理で振る舞います。危機が脅威となると彼らは金利を上昇させます。けれども危機を予防するためには、まったく反対のことをしなければなりません。彼らは追いつめられた雇用主に低利で融資を行わせなければなりません。それは貨幣流通を増加させ、物価下落を防止するためです。こうした融資は短期融資で、経済危機があってから貨幣流通を増加させることは通貨を安定させる考え方とは逆に、物価を上昇させるでしょう。

しかし愛他的な行動が私企業に期待できるはずもありません。それでこうした中銀でさえ、じぶんたちの報酬を受け取ったあとで、通貨の規制をするために国家当局に紙幣を発行する権利を引き渡すはずです。中銀は政府当局の意向に従うことになるでしょう。その意向は通貨の安定化を目的とすることでしょう。当局は脅威を受けている雇用主たちの行動に方向を与えることで、一般的な経済危機を防止することができるでしょう。どのような経済危機も物価下落の結果です。物価の下落を食い止めるものがなんであれ販売の停滞、支払いの停止、全般的失業を食い止めるでしょう。

しかし一つの反論に出会うでしょう。このように安定化した紙幣はどのように担保されているかと。ここで担保（ゴールド）は不必要です。なぜなら貨幣はどのような貴金属によるよりも安定した購買力によって担保されているからです。平均的な財でみた購買力が安定していれば、貨幣は完全に財のストックで担保されているでしょう。

ゲゼルはよくこの安定した通貨をガリレオの天体のシステムと比較しました。ガリレオの先行者であるコペルニクスは惑星の運動法則を発見しました。しかし彼は空間には上下があるはずだとの観念から自由ではありませんでした。それで太陽を巡る固定した平面上を惑星が回転するという理論にならざるをえませんでした。ガリレオは人類をこうした誤謬から解放しました。彼は太陽も惑星も空間のなかで動いているという事実をつかんだのです。金本位の貨幣はコペルニクスの固定した平面にあたるでしょう。

生産活動が経済危機によって妨げられず、自由に発展するとき、狭量な経済学者が「過剰生産」とよぶ危険性が存在します。国家通貨局は生産増による供給増に見合う貨幣を流通させ、物価の下落を抑えなければならないでしょう。

国家通貨局はいくつかの方法で新規に通貨を流通させることができます。低金利での貨幣の貸付、政府債務の償還です。低利貸付の手法が全般的な金利の低下をもたらすこ

とは容易にわかります。後者の政府債務の償還という手法も同様の効果をもたらします。資金需要は減少し、融資の提供は政府が支払った債務額に比例して増加するでしょう。その結果は不可避免的に金利の下落となります。

こうした金利低下が一般化するという事は、ことを債務者の視点からみると容易にわかります。債務者はだれであれ、国家通貨局から3%で資金を借り入れることができる時、資金の貸し手に4%の金利を支払おうとはしないもだからです。

世界の病は複利にある。シルビオ・ゲゼル、
バイエルンの大蔵大臣、空想家あるいは構想を示す者

ベルント・グラシヨフ

(バイエルン・ラジオ、04年4月3日放送より)

・・・だから、経済専門家のジョン・メイナード・ケインズはこう語っている。「シルビオ・ゲゼルは私にとって通貨上の景気理論の先駆者であり、このことによつて最終的にはIMFの精神的な父である」。このゲゼルから世界はカール・マルクスよりも多くのことを学ぶことができる。

ゲゼルはバイエルンの人間ではなく、むしろ「世界市民」であり、ミュンヘンは自分の主張を実現しようと望んだ場所である。1862年に生まれ、何年もの間、20世紀になるまで、実業家としてアルゼンチンとスイスで暮らしていた。彼は貨幣価値と自然な経済秩序についての著作を著し、知られるようになった。

1919年、社会民主党のホフマン政府はインフレと戦うために彼を大蔵大臣に任命した。しかし1919年4月に彼がミュンヘンに着いたとき、すでに評議会政府によってあっけなく転覆されていたが、そこで彼はすでに著作で明らかに社会主義とは手を切っていたけれども、評議会政府の要請に応じた。

ゲゼルは5月の初め逮捕され、7月に釈放された。彼が大蔵大臣として職務を遂行できたのはほんのわずかな期間であったが多くの通達を出し、他方で、貨幣量管理のための絶対的でダイナミックな通貨の主張は社会主義と資本主義の間の、第三の途へといっそう強力に分け入っていくこととなった。

こんにち、社会主義の経験の終焉とグローバルな競争の興隆のあとで、注目されるところとなっている。彼の「自由経済」を実現しようとのドイツにおける最初の試みがあり、1932年には「ヴェルグル通貨の奇跡」が、また米国でも実践が行われたが、すでにゲゼルは1930年に逝去していた。

バイエルンではゲゼルはあまりにも長く不当に過小評価され、評議会政府の時期は不幸な状態におかれた。しかし彼はバイエルンの歴史の片隅におかれる以上の存在である。米国の大学では彼の学説は経済学の堅固な構成部分をなしている。

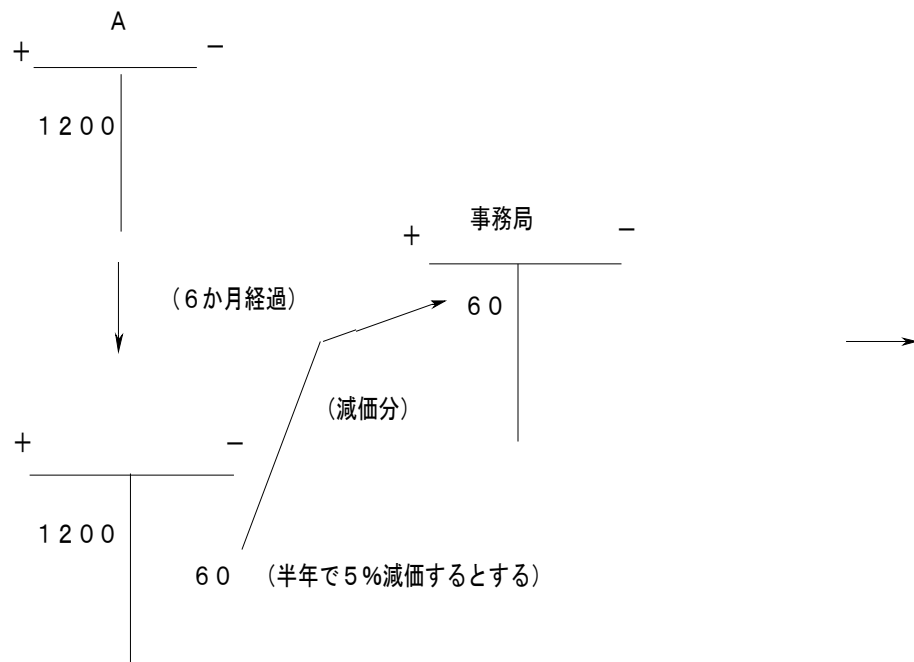
<放送の録音はmp3ファイルにしてあります。入手ご希望の方はWATBANKまで
ご一報ください。>

「ちがりん」における事務局、太っ腹モード

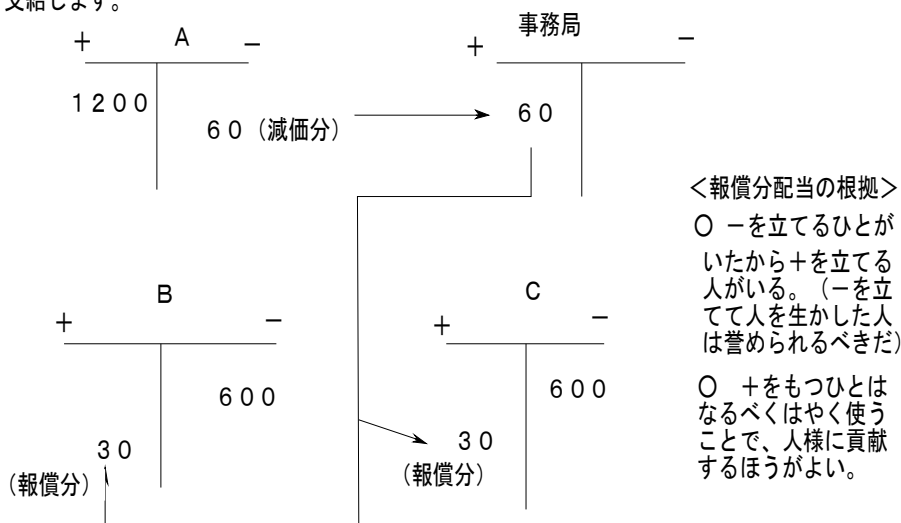
森野 栄一

茅ヶ崎の地域通貨「Cーリング」(ちがりん)は交換リング方式で口座処理でプラスポイントを減価させる方式です。ここで、減価の処理に二方式考えられていますので、それを紹介しておきます。

○ ひとつはよくある事務局に減価分が移転する方式です。これは各地で行われています。減価分は一種の税ですから、この分は税として全体に属します。つまり事務局の収入となって、運営経費等に充てられます。ちがりんでは6か月経過すると通帳切り替えで、そのさい減価の処理をしますので、それを例にします。



○ もう一つは事務局太っ腹方式です。ここでは、口座のプラスに対する減価分は事務局に入りません。通帳切り替え時に事務局は減価分を口座がマイナスのひとに支給します。



○ 上記いずれのケースでも仕組み全体での+・-は対応しバランスしています。太っ腹方式では事務局は運営費が入ってきませんが、それは会員からの寄付等でまかなえるでしょう。寄付がない場合は事務局の-はその活動量を語る命字塔で

月刊 WAT 第四号
発行日 2004年5月1日
編集 ワット友の会
発行 WATBANK
102-0075 東京都千代田区三番町30番8号 生光ビル501
mail: watbank@watsystems.net
URL: www.watsystems.net / <http://watbank.zapto.org>
Copyright © 2004 ワット友の会 無断転載・複写を禁ず

